

入学前課題取組状況と退学の兆しの関連に関する研究

Research on the Relationship Between Pre-Enrollment Assignment Engagement and Signs of Dropout

池村 努

北陸学院大学 社会学部 社会学科

Hokuriku-gakuin University Faculty of Social Sciences Department of Sociology

Email: ikemura@hokurikugakuin.ac.jp

あらまし：2021年度から入学前課題としてeラーニング教材のラインズドリルを導入した。導入にあたり、前年の2020年度から短期大学部コミュニティ文化学科で試行的に導入し、フィードバック（声掛け）が課題実施に役立つことを認識した。現在学生の退学率減少は大きな課題となっている。「声掛け」を行っても入学前課題を完了しない学生が一定数あり、退学者の中に課している学生に課題に取り組まなかった、或いは完了しなかった学生が一定数いたことから、入学前課題実施状況から退学に繋がる兆しを見いだせるのではないかと考え研究を行った。

キーワード：遠隔授業、eラーニング、フィードバック、退学率、ラインズドリル

1. はじめに

本学では2021年度から入学前課題としてラインズドリルを「HGドリル」と命名して導入した。ラインズドリルはオンラインで基礎学力強化ができるリメディアル教育専用eラーニング教材である。オンライン教材は受講者の意欲により積極的に活用することもできれば、あまり効果を得られない場合もある。積極的に課題に取り組ませるための方法としてこれまで「声掛け」について研究を行い、学生の意欲向上に効果があることが確認できた。次に入学前課題と入学後の関連について確認したが、有意な関連が見られないことがわかった。今回は入学前課題への取組状況と入学後の就学意欲、特に退学に繋がった学生についての確認を行なった。また例年行っているHGドリル実施についてのアンケート結果も報告する。

2. 入学前課題について

一般的に学校推薦型選抜や総合型選抜などいわゆる「年内入試」合格者は、一般選抜受験者と比べて進路決定時期が早い。12月には進路が決定し、残りの高校生活に空白期間が生じることになる。そこで初年次教育の一環として、2008年の4年制大学立ち上げ時から入学前の課題を整備し、年内入試合格者に課してきた。2021年度からはラインズドリルを「HGドリル」として「年内入試」合格者に必須課題として課し、一般入試合格者には合格通知と共に課題実施方法を案内して任意課題として設定している。2023年度までは全学部がラインズドリルに備わっている二つのグレードのうち高難易度の「スタンダード」グレードを課していたが、昨年度実施したアンケート結果を受けて全学部において「ベーシック」グレードへの切り替えを行なった。課題とする科目は学部ごとに設定している。また今年度実施したアンケートにより、難易度変更の結果についても確認

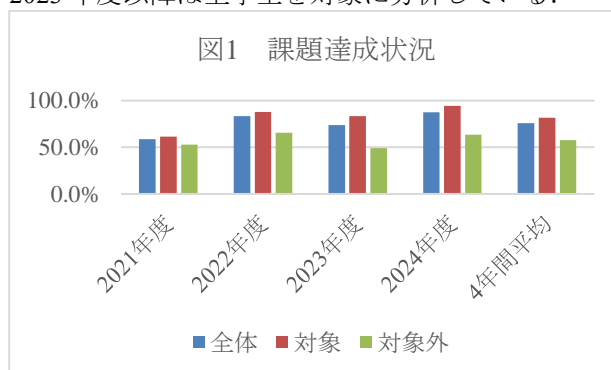
を行う。

表1 分析対象学生数(人)

	2021年	2022年	2023年	2024年
全体	187	153	132	96
対象	130	124	95	75
対象外	57	29	37	21

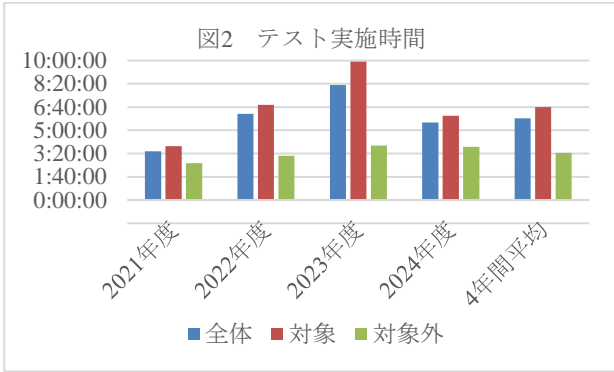
3. 退学者予測の可能性

今回対象とした入学年度はHGドリルを入学前課題として導入した2021年度生以降とした。また短期大学部コミュニティ文化学科学生は、入学後も授業内でHGドリルを活用しており、学習時間についてのデータが他学部学生と異なることが予想されたため、今回の分析から除外することとした。なお、短期大学部は2022年度限りで募集停止となったため、2023年度以降は全学生を対象に分析している。



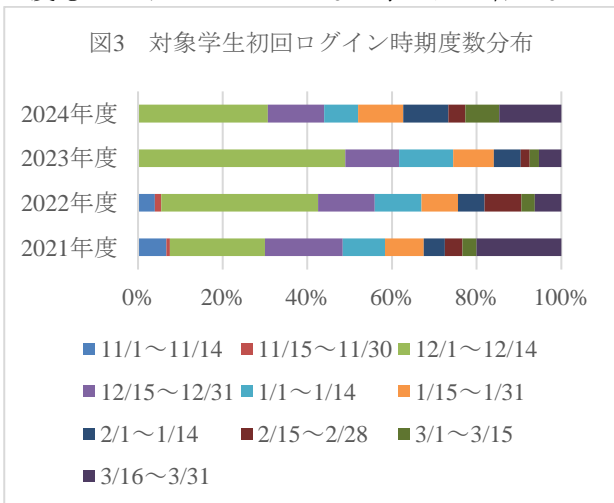
まず2021年度から2024年度入学生における課題達成状況について示す(図1)。初年度の2021年度は課題を完了した入学前課題対象学生が60%程度だったが、翌年から声掛けを継続的に実施したことにより80%を越える様になり、2024年度は90%以上が完了した。対象外となる一般選抜合格者において

も平均的に一定数の学生が取り組んでいる。



次に HG ドリルのテスト実施時間を示す(図 2)。2021 年度は全体的に実施時間が短かったが、翌年以降は平均的に 6 時間を越えるようになってきた。特に 2023 年度の平均が 10 時間近い理由は 20 時間を越えるテスト実施時間の学生が 9 名いたためと考えられる。実施時間は受講した学生の HG ドリルに対する意欲を表すものとは限らないが、少なくともやり遂げるまで何度でも繰り返し取り組んでいたことが読み取れる。中にはログイン回数が 237 回を数えていた学生もいた。2021 年度学生にもログイン回数が 100 回を超えた者もいたが、入学前課題対象外で、最終的に進路変更のため退学している。

課題対象学生についてログイン回数の度数分布を求め、一覧に示す。声かけ徹底の結果、2024 年度は一度もログインしたことのない学生は 0 名になった。



次に初回ログインの時期について確認する。入学前課題対象学生について示す(図③)。合格通知とともに入学前課題の案内を同封し、3 月末をめでに終了するよう対象者に案内を送っている。最終的にログインした学生を 100%としたログイン時期の変化を 2021 年度から 2024 年度にかけて確認すると、2022 年度と 2023 年度については初期から順調にログインする学生(≠課題をやっている学生)が増加し、2 月上旬には 80%の学生が初回ログインを済ませている。

課題対象者の中で退学した学生と、就学を続けている学生について平均ログイン回数は大きな違いは

見られなかった。また初回ログイン時期についても明確な差異はなかった。

ここまでのところから、課題達成状況が著しく低い学生は、何らかの課題を抱えドリルに取り組みないまま 4 月を迎える傾向があるように読み取れた。もちろん課題達成した学生の中にも諸事情により退学の道を選ぶものもあり一般化することは難しいが、入学前課題実施状況から何らかの兆しを見つけ、同様の兆候が見られる予備軍の発見と早期指導に繋げる材料になったように思われる。

4. 入学前課題の改訂

2023 年度 JSiSE48 で報告したように、入学前課題について「どちらかというとなかなか難しかった/難しかった」の割合が多かったことを受け、2024 年度の課題決定に際して出題レベルをスタンダードからベーシックに適正化するよう各学部から求め、受け入れられた。また学生への声掛けについて徹底するため、昨年度は学部ごとに進捗チェックを行っていたものを、一括でチェックしたのち、学部を通じて学部担当者に連絡し、入学予定学生にメールする方法を取った。

5. 入学前課題実施状況とアンケート結果

2023 年度の入学前課題達成状況は以下の通りとなっている。課題達成率が前年に較べ大幅に向上していることがわかる。この結果が課題レベルの適正化と声掛け方法の変更によるものかどうか検証する。

2022 年度から導入した「HG ドリル学習計画表」を継続して用いている。予め目標を示し、自発的に計画を立てていくことができるような工夫を行なった。また各学部担当者を置き「声掛け」を継続して行っている。

こちらでも難易度、出題レベルについても好印象の回答が増加している。2024 年度の課題について変更を行ったことが好印象に繋がったように思う。「満足」「やや満足」と回答した者の「そのように回答した理由を教えてください」という自由回答で「復習になった」「学び直しができた」「解説までついていて分かりやすかった」とする好意的な回答が多くみられた。

6. まとめ

前年に引き続き入学前課題取組状況を切り口に、入学後の学生の姿を予想する研究を行った。関連性が明確で無い要素もあるが、入学前課題に積極的に取り組んでいる学生は比較的就学継続意欲が高いように思われる。また、入学前課題において達成率が著しく低い学生は何らかの問題を抱えた状態で入学してきていることが予想できた。初回ログイン時期に関しても有意な差は見られないものの多くの学生が課題の案内到着と同時に取り組みを開始していることを考えると、こちらでも何らかの関連を見つめることができるのかもしれない。

本研究を今後も継続し、適切な学生指導を行ない退学者減少に繋がれるようにしていきたい。